

1 はじめに

1. 今年度の学校評価について

本校は平成29年度より西前小学校と併設型小中一貫校となり、共通の学校教育目標、重点取組目標のもと、9年間の教育活動をつなげるため、年間を通じて小学校と協働しながら教育活動を進めています。小規模校であるため、職員の人数は少ないですが、協力し合いながら、安心して過ごすことができる環境と充実した学びを大事にして教育活動を行ってきました。また、各教育活動の実施に際しては、近隣地域の厚い支援体制に支えられ、校外の多くの方々のお力も借りることで成り立っておりますことを心から感謝しながら、その振り返りをご報告いたします。

評価項目は、年度当初に設定した学校経営方針を踏まえて作成しました。

【今年度の学校評価の取組】

- 4月 中期学校経営計画・並びに評価計画立案・評価項目の設定
- 1月 保護者と全校生徒による学校評価
職員個人による学校評価の集約→組織評価
- 2月 職員会議にて学校としてのまとめ、改善策の確認検討、令和4年度の取組項目の策定
学校運営協議会への報告および「学校評価報告書」の作成
- 3月 市教育委員会への報告、学校だより『にしとべの丘』への掲載
学校評価報告書を踏まえた、令和4年度の具体的な取組の計画立案

【評価の方法】

各評価のデータは、①生徒による学校評価、②保護者による学校評価、③教職員による学校評価(全般)、④教職員による組織評価(校務分掌)ごと4種類をまとめています。前述の①③については、『A(大変よい)、B(ほぼよい)』②については『あてはまる、少し当てはまる』の合計 80%を目標値として設定しました。

①② 学校評価 生徒・保護者アンケート結果

A：よい+B:ほぼよい（保護者は、あてはまる+少しあてはまる）の割合

共通取組 重点取組	項目	生徒（回答数161）				保護者（回答数101）			
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
1 生きては たらく知	自ら学習しよう とする意欲	77%	79%	78%	78%	42%	70%	60%	57%
	学力の定着	73%	70%	78%	73%	42%	67%	68%	59%
	興味・関心を踏 まえた学習指導	100%	98%	91%	97%	48%	53%	48%	50%
	ICTを効果的に活 用した学習指導	100%	96%	95%	97%	39%	30%	38%	36%
2 豊かな心	自他を大切にし ようとする姿勢	100%	95%	95%	96%	71%	83%	68%	73%
	行事・特別活動 等で個性を伸長 しようとしてい	85%	91%	93%	90%	68%	80%	65%	70%
3 健やかな 体 ・食育	心身の健康の大 切さの理解	94%	91%	93%	93%	39%	70%	50%	52%
	心身の健康に必 要な生活習慣が 身に付いている	83%	77%	69%	76%	52%	67%	50%	55%
4 キャリア 教育	キャリア教育へ の取組	92%	91%	93%	92%	48%	63%	43%	50%
	将来についての 展望	88%	84%	88%	87%	35%	47%	60%	49%
5 学校生活	決まりを守る姿 勢・落ち着いた 学校生活	94%	96%	98%	96%	68%	80%	63%	69%
	安心して過ごせ る学校環境	92%	96%	100%	96%	58%	80%	68%	68%
	いじめに対する 意識	96%	95%	100%	97%	55%	83%	68%	68%
6 地域連携	学校教育活動の 発信	90%	93%	97%	93%	61%	70%	55%	61%
	西前小や地域と の関わり	87%	95%	90%	90%	61%	57%	53%	56%
7 安全・防 災	防災訓練や地域連	98%	95%	98%	97%	61%	57%	63%	60%
	身の回りの安全 に対する意識	92%	89%	91%	91%	61%	57%	60%	59%

2 考察と今後の課題・改善策など

1. 生きてはたらく知

今年度は全教室にスクリーンを設置し、より分かりやすい授業となるよう活用を進めてきました。評価の改訂に伴い、生徒が主体的に取り組んだり、表現したりできる機会を設けるよう、学習指導の工夫や授業改善にも努めてきました。昨年からは配布された ICT 端末は設置場所や使用できる時間を変更し、生徒がより活用しやすいように変更をおこないました。そのことは学習指導に関する、生徒のアンケート結果の高評価につながっていると考えられます。今年から始めた情報モラルの学習と合わせ、引き続き、ICT の効果的な活用を図りながら、授業改善を行っていきます。また、学習意欲や学力の定着については、昨年度より評価の値は上がっていますが、他の項目に比べ低い値であることを受け止め、課題として来年度も取り組んでいきます。さらに、ICT の活用に関しては生徒と保護者のアンケート結果に大きな開きがあったことも課題として受け止め、情報発信や保護者のニーズを理解するよう努めていきたいと思えます。

2. 豊かな心

今年度は各学年で校外学習を実施することができました。さらに、時間は縮小しましたが、2年ぶりに文化祭も実施でき、各クラスの合唱の発表を保護者の方に見てもらうことができました。体育祭でもクラスや学年の団結を大縄や学年種目で発揮する姿が見られました。委員会活動も各委員会で工夫した活動を行うことができました。生徒のアンケート結果からも充実感が伺えます。今後も学級活動や行事、特別活動や部活動を通し、生徒が支え合い、自己有用感が高められるようにしていきたいと思えます。さらに、道徳教育の充実を図り、自己を見つめたり、他者との関りについて考えたりできる有意義な時間となるよう努めていきます。

3. 健やかな体・食育

健康の大切さへの理解に対して、生徒の評価は高く、保健美化委員や養護教諭によって毎月発行される保健だよりや、保健美化委員会による「悩み」をテーマにした学校保健委員会の発表、ぱくぱく便りの掲示などにより、生徒の意識が高まっていると考えられます。一方、生活習慣については昨年より数値が上がってはいますが、睡眠不足や生活が不規則になっている状況が十分に改善されていないことが伺えます。今後もよりよい生活習慣の定着を目指し、啓発活動を引き続き行なっていきます。また、保護者から、学校給食へのご意見が多くありましたが、市の取組のため、学校として対応することができないことをご理解ください。

4. キャリア教育

総合的な学習の時間の1つの核となる取組がキャリア教育です。西前小とのつながりとして、キャリアパスポートを継続して作成し、中学校でも年間3回の振り返りを行い、今後の目標づくりにつなげられるよう変更を行いました。また1年生では職業調べの発表会の充実を図ったり、2年生では選択制で職業講話の発表を行ったりと昨年の取組を活かしながら、改善を図ることができました。さらに、3年生では高校の先生を招いて進路学習会を2年ぶりに実施し、進路選択を考える上で、各高校で特色ある取組を行っていることを学ぶ機会を設けました。小学校からのキャリア学習が段階を追って発展し、卒業時には生徒それぞれが生き方の展望をもって進路選択ができるよう、3年間のつながりを大切にしながら取り組んでいきます。キャリア教育に関して、生徒と保護者の方のアンケート結果に大きな開きがあったことを踏まえ、生徒の活動について理解が得られるような発信方法を模索していきたいと思えます。

5. 学校生活

いじめの対応に関しては、いじめ防止基本方針に沿って、月1回の情報交換、委員会への報告、生活委員会によるいじめ防止キャンペーンを行ってきました。4月に担任と教育相談を行い、さらに年間を通し、行事や長期休み明けの時期などに計画的にアンケートや教育相談を実施し、生徒理解に努めてきました。また日常から情報交換を密に行うようにし、全職員で共通理解のもと、生徒に丁寧に声かけをしていくよう心掛けています。これらの活動を続けてきたことで、現在、規律・秩序が保たれた日常生活の中で、安心して学習や部活動に励める環境が整ってきました。そして、いじめに対する生徒の意識も高い状況が維持できています。今後も、現状に甘んじることなく、安心できる居場所づくりを大切に、生徒の声や思いをしっかりと受け止めて、生徒に寄り添った、きめ細かい指導を続けて行きたいと思えます。

6. 地域連携

今年度も地域で生徒が活躍できる場はありませんでしたが、西前小学校との連携は新たな取組もあり、充実させることができました。体育祭ではソーラン節の発表に向けて、小学校6年生と事前に合同練習を行いました。部活動では陸上部やサッカー部で小学生との合同練習会を開催しました。1月には、小学校6年生を1クラスずつ中学校に招き、午前中の体験授業を行いました。さらに教科の連携として、特別カリキュラム編成に向けて、英語では年間を通して、数学では後期に中学校の教員が定期的に小学校に行き、6年生の授業を行ってきました。現在は西前小との独自教科に向けて一緒に話し合いを進め始めています。また、学校運営協議会を通し、地域の方に西中学校の授業の様子や前期の活動の様子を伝えることができました。保護者の方にも授業公開日や土曜参観を通して生徒の活動を見ていただくとともに、学校ホームページの定期的な更新、学校便り等で学校教育活動の発信を行ってきました。今後も、学校教育活動の理解が図れるように工夫し、地域・家庭との連携を大切にしていきたいと思えます。

7. 安全・防災

安全・防災に対する生徒の評価が昨年よりさらに向上しました。保護者参加型の引取り訓練や避難訓練、1年生での防災センターの見学や消防の方を招いた総合防災訓練などを実施し、防災意識の向上に努めてきたことがこの結果につながっていると考えられます。今後も引き続き、いつ起こるか分からない災害に向けて、訓練や学習を進めていく一方で、活動の様子などを学校便りで発信・共有し、家庭と連携しながら、安全意識を高めていけるよう心掛けていきます。

全体を通して

今年度は少しずつですが、コロナ以前の状況に戻りつつあり、生徒たちが、より多くの場面で、とても意欲的に学習、部活動、行事に取り組む姿を見ることができました。今年度も落ち着いた状況で、無事に過ごすことができたことを幸せに感じています。学校現場ではより一層のICT機器の効果的な活用や、独自教科の導入、職員のはたらき方改革に伴う部活動の変革など、大きな変化の波が来ています。そのような時だからこそ、生徒が充実した学校生活を送れるようにすることを核として、よりよい教育活動となるように力を尽くしていきます。また、今回、全体的に生徒と保護者の評価に大きな開きがあったことを真摯に受け止め、指導の向上を図るとともに、発信方法を工夫し、理解に努めていきたいと思えます。さらに、保護者アンケートの回収率向上にも努めていきます。

日頃より御協力・御支援くださる保護者、地域の皆様に感謝いたしております。今後ともよろしく願いいたします。

3 学校評価 職員による個人評価

2022(令和4年)職員自己評価A票【個人→教務】		十分に きている	おおむね できてる	あまり できない	できていない
中期学校経営方針に即した評価項目		A	B	C	D
中期学校経営方針に即した評価項目					
1 生きてはたらく知	①重点目標の達成を目指し、可能な形で小中合同授業研究会や乗り入れ授業を活用して、学びの連携と学力向上を図る。	53%	37%	11%	0%
	②生徒がさらに主体的に考え、互いに高め合い、確かな学びとなるように、タブレット等を活用し、問題解決学習や体験学習を取り入れるよう授業展開の工夫を行う。	47%	53%	0%	0%
2 豊かな心	①生徒が自己を見つめ、考えを広げられるような道徳授業が行えるように、学年間で連携を図りながら、授業形態の工夫を行う。	32%	58%	11%	0%
	②生徒の自尊感情が育まれるように、活動の場(行事等)を工夫し、YPアセスメント等の活用で、観察や教育相談等でつくりあげていく。	58%	42%	0%	0%
3 健やかな体 食育	①一校一実践運動や教科指導等を通し、一人ひとりが健康に必要な生活習慣を自ら課題を見つけ、取り組める態度を育てる。	21%	74%	5%	0%
	②生徒委員会活動や保健だよりを通じて、心身の健康の保持増進に必要な生活習慣(運動、食、睡眠、ストレスへの対処など)に関する情報を発信する。	58%	42%	0%	0%
4 キャリア教育	①キャリアパスポートを活用し、9年間を通した自分づくり教育を推進する。具体的には各学年のキャリア教育を充実させる。	47%	53%	0%	0%
	②3年間の見通しをもった進路学習の計画を立て、生徒が主体的に進路選択ができるように学習を進める。	37%	63%	0%	0%
5 特別支援教育	①特別支援教室は必要な生徒に必要な支援を提供する。一般学級で授業を受けているなかで学習につまずいていたり配慮が必要な生徒の支援を充実させる。また不登校生徒に対する支援計画を明確にし、登校支援を行う。	74%	26%	0%	0%
	②ケース会議を充実させ、個別の教育支援計画・指導計画と合わせ全職員と共有し、日常の指導に生かす。	42%	53%	5%	0%
6 児童・生徒指導 いじめへの対応	①生徒指導確認事項を共有し、日頃から声かけを行ったりするなど、生徒一人ひとりに寄り添った生徒指導に組織的に取り組む。	58%	42%	0%	0%
	②生徒指導研修会の充実、生徒の情報を共有、組織的な対応を行い、特に不登校生徒や支援が必要な生徒について、関係機関と連携して対応していく。	47%	53%	0%	0%
7 地域連携・ 学校運営協議会	①学校、家庭、地域の連携を密にし、行事等の情報発信をし、生徒が自主的に地域行事へ参加できるようにする。	16%	79%	5%	0%
	②西前小学校と連携しながら、学校運営協議会の内容の充実を図り、地域・小学校・中学校のよりよい形で連携を行う。	42%	53%	5%	0%
8 安全に関する教育 と安全管理	①緊急時の危機管理体制を明確にし、迅速な対応ができるよう不審者対応及び安全研修会を実施する。	37%	63%	0%	0%
	②災害・安全に関する防災教育を取り入れた総合防災訓練を実施する。③1年生に横浜市民防災センター見学を取り入れ、防災・安全への意識を高める。	79%	21%	0%	0%
9 いじめへの対応	①本校いじめ防止対策方針を共有し、いじめに対する意識を高くし、アンケート等により個々の変化を見逃さない体制をつくる。	74%	26%	0%	0%
	②月1回以上のいじめ防止対策委員会を開催し、情報交換や認知された案件の経過確認をていねいに行い、未然防止・早期発見に努める。	74%	26%	0%	0%
10 人材育成 組織運営 (働き方改革)	①ミドルリーダーを活用しながら若手中心にICT機器を使用した授業づくりなどの研修の機会を設け、授業力向上に取り組む。	47%	42%	11%	0%
	②危機管理への対応力育成のため、計画的に訓練や研修を行い意識の向上へとつなげる。	42%	58%	0%	0%
	③働き方改革の視点から、部活動指導について全職員で共通理解をしながら持続可能な指導を行う。	32%	63%	5%	0%

4 学校評価 職員による組織評価

C票 西中学校 学校評価【令和4年度】

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	<p>①重点目標の達成を目指し、小中合同授業研究会や乗り入れ授業を活用して、学びの連携と学力向上を図る。</p> <p>②生徒がさらに主体的に考え、互いに高め合い、確かな学びとなるように、chrome book等を活用し、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れるよう授業展開の工夫を行う。</p>	<p>①小中合同授業研究会や中学校体験授業を通して、小中間の学びの連携と学力向上を図ることができた。</p> <p>②学級、授業を主としてchrome book等のICT機器を活用し、確かな学びにつながるよう工夫できた。また、今年度は朝学習に情報の時間を取り入れ、情報教育を積極的に行うことができた。</p>	B
豊かな心	<p>①道徳教材や学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲などの道徳性を養っていく。</p> <p>②生徒の自尊感情が育まれるように、活動の場(行事等)を工夫し、YPアセスメント等の活用で、観察や教育相談等でつくりあげていく。</p>	<p>①道徳の授業ではよりよく生きるための判断基準を育めるよう工夫・改善を提案できるようにする。</p> <p>②「誰もが」「安心して」「豊かに」の視点をもって、生活アンケートやYPアセスメント等を行い、全職員が相談員として一人ひとりの課題や居場所について共通理解できた。</p>	B
健やかな体・食育	<p>①一校一実践運動や教科指導等を通し、一人ひとりが健康に必要な生活習慣を自ら課題を見つけ、取り組める態度を育てる。</p> <p>②学校だよりや保健だより、食の保健指導、委員会活動を通じて食の意識改善を図り、生徒・保護者に食育に関する情報を発信する。</p>	<p>①保健体育科では、基礎体力向上を目指すため、授業の中でランニング、筋力トレーニング、ストレッチ体操等、継続かつ主体的に取り組めようになってきた。</p> <p>②学校だよりにより毎月食育専門家のコラムを掲載し家庭への食の啓発を行った。生徒委員会活動では、毎月ばくばく便りを教室に掲示したり、「カゴメ栽培プログラム」に参加しまとめた結果を文化祭の展示で発表したり、食に関する情報発信を行った。</p>	B
キャリア教育	<p>①3年間の見通しをもった進路学習の計画を立て、生徒が主体的に進路について考え、自分に合った進路選択ができるように学習を進める。</p> <p>②各学年のキャリア学習を充実させ、キャリアパスポートを活用しながら、9年間を通した自分づくり教育を推進する。</p>	<p>①3年生は進路学習会を行い、多様な高校を知る機会とした。1・2年生は職業講話や職業調べを通し職業観を育むことができた。</p> <p>②自分の目指す姿を意識しながら、振り返りが行えるように、長期休み前の振り返りをキャリアパスポートの形式を取り入れた形に変更した。今後もそれを活用し自分づくりを推進する。</p>	B
特別支援教育	<p>①特別支援教室は必要な生徒に必要な支援を提供する。学習支援とともに不登校の未然防止の場としても活用していく。</p> <p>②発達障害等について学び、配慮を要する個々の生徒の特性について理解を深めることができるような職員研修を実施する。</p> <p>③個別の教育支援計画・指導計画は全職員で共有し、日常の支援・指導に生かすようにする。</p>	<p>①学習支援は生徒自身も必要と感じたタイミングでスムーズにスタートさせることができ意欲的な学習へと繋げることができた。登校支援には臨機応変に対応することで一時的な安心できる居場所として活用することができた。</p> <p>②新年度スタートの早い時期に特性のある生徒の情報を全職員で共有、その後コーディネーターが発達委障害とその支援方法について研修を行い、生徒の特性について理解を深めることができた。</p> <p>③年度初めと前後期末に個別の教育支援計画・指導計画を全職員で共有する機会を設け、日常の支援・指導に生かすことができた。</p>	B
児童生徒指導・いじめへの対応	<p>①本校いじめ防止対策方針を共有し、いじめに対する意識を高め、アンケート等により個々の変化を見逃さない体制をつくる。</p> <p>②月1回以上のいじめ防止対策委員会を開催し、情報交換や認知された案件の経過を丁寧に観察し、未然防止・早期発見に努める。</p>	<p>①授業や行事等での生徒との関わりの中で、いじめを察知し、その情報(アンケート等含む)を全職員で共有するなど、いじめのない学校風土づくりに努めた。</p> <p>②いじめ防止対策委員会等で、いじめ認知を早期に発見できる職員体制を機能させ、いじめに関して生徒へ丁寧な聞き取りを積み重ねることができた。</p>	A
地域連携 学校運営協議会	<p>①学校、家庭、地域の連携を密にし、行事等の情報発信を行うとともに、生徒が地域の一員としての意識をもち、自主的な活動が行えるよう推進する。</p> <p>②西前小学校と協力しながら、学校運営協議会の内容の充実を図り、地域・小学校・中学校のよりよい形で連携を行う。</p>	<p>①今年も地域行事等が中止になり、地域で生徒が活躍できる場はなかったが、学校運営協議会を通し、学校経営方針を理解してもらい、西中の様子を伝えることができた。地域からの参加者と現状の共有ができ、学校運営に生かすことができた。</p> <p>②小中連携の形を変更し、教科をはじめ、小6体験授業など連携を深めることができた。</p>	B
安全に関する教育と安全管理	<p>①緊急時、的確かつ迅速な対応ができるよう、専門家を招き、シミュレーションを取り入れた救急対応研修会を実施する。</p> <p>②消防署や区役所職員による災害・安全に関する防災教育を取り入れた総合防災訓練を実施する。</p> <p>③1年生に横浜市民防災センター見学を取り入れ、災害について学習し、防災・安全の意識を高める。</p>	<p>①水泳学習開始前に消防所長を講師に迎え、心肺蘇生が必要な場面を想定した職員救急対応訓練を実施し、心肺蘇生の正確なやり方やチームで行うことの大切さを学んだ。</p> <p>②区役所・消防職員の連携による体験や防災学習により、災害・防災について興味関心を高めることができた。</p> <p>③防災センターでのより専門的な体験ツアープログラムを通し、災害・防災に関する知識を深め、意識を高めることができた。</p>	B
人材育成・組織運営 (働き方改革)	<p>①Leafによる研修と教職員どうしの学び合いによる資質能力の向上を図る。</p> <p>②教職員間の情報共有と協働による組織的な業務の取組を進める。</p> <p>③データリテラシーの向上とICTを活用した会議や事務の一層の効率化を進める。</p>	<p>①ICTを駆使してわかりやすい授業や効率的な業務を進めている。職員同士で使い方などの情報が共有されていることは評価できる。</p> <p>②Leafによる研修の管理が定着しつつある。</p> <p>③新たな発案で効率化を進めることは重要であるが、手続きが公正であるかの判断をする必要が出てくると予想される。</p>	B